

平成27年 第3回 臨時

摂津市教育委員会会議録

開催日時 平成27年8月7日(金) 午前10時00分開会
午後 0時40分閉会

開催場所 摂津市役所 新館7階 講堂

付議事件

議案番号	件名	審議結果
45	「平成28年度使用摂津市立義務教育諸学校教科用図書、平成28年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書採択の件」	承認

出席者

委員長	大矢優子	総務課長	溝口哲也
委員長職務代理者	福元実	教育支援課長	
委員	齊藤公男	兼教育センター所長	撰田裕美
委員	山手知榮子	総務課長代理	
委員	箸尾谷知也	兼総務係長	鈴木誠
教育総務部長	山本和憲	教育支援課主査	田中大介
次世代育成部長	前馬晋策	総務課係員	関本敏晴
生涯学習部長	宮部善隆		

委員長

ただいまから、平成27年第3回教育委員会臨時会を開催いたします。本日の署名委員は山手委員ですので、よろしくお願ひします。

本日の付議事件は1件です。

それでは、議案第45号「平成28年度使用摂津市立義務教育諸学校教科用図書、平成28年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書採択の件」について、教育支援課長より説明をお願いします。

教育支援課長

議案第45号「平成28年度使用摂津市立義務教育諸学校教科用図書、平成28年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書採択の件」についてご説明申し上げますので、ご審議・ご承認賜りますようお願いいたします。

【以下、議案書により説明】

委員長

それでは審議に入るにあたり、私から本議案に関する今日までの教育委員会としての活動の経過を説明させていただきます。

教育委員会は、平成27年4月7日付文部科学省初等中等教育局長通知「平成28年度使用教科書の採択について」、ならびに同日付文部科学省初等中等教育局教科書課長通知「平成28年度使用教科書の採択事務処理について」、及び平成27年4月23日付大阪府教育委員会教育長通知「義務教育諸学校における平成28年度使用教科用図書の採択について」に基づき、採択の公正確保と静ひつな採択環境の確保に十分留意し、専門的な調査研究活動を行うため、「平成28年度使用学校教育法附則第9条図書の選定に関する事項並びに平成28年度使用摂津市立中学校教科用図書の選定に関する事項」について平成27年4月27日付で選定委員会に諮問を行いました。

選定委員会では諮問を受け、全教科・種目の全発行者の教科用図書について調査を行いそれに基づいて教科用図書選定に関する協議を重ねられ、去る平成27年7月23日教育委員会に対して答申をご提出いただきました。

答申には、附則第9条関係図書の選定に関すること、見本本が届けられた全種目全発行者の教科用図書の特長、選定委員会としてさらに各者を比較した点とその特長、また、各者ならびに各種目について複数者の採択候補が記載されておりました。

これらの答申を受け、教育委員会としては、見本本が届けられた全種目全発行者の教科用図書、資料提供された調査員報告書、学校意見書や教科書見本本展示会において寄せられた意見等について、教育委員それぞれが事前に目を通した上で、去る平成27年7月23日と29日、及び31日、8月3日に教科用図書採択に関する学習会を開催し、本市の中学校で使用する平成28年度使用教科用図書の採択について、種目ごとに協議を行ってまいりました。

以上がこれまでの議論の経過です。各委員から何か補足はございますか。

全委員

特になし。

委員長

それでは、議案審議に入ります。

まず、平成28年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書採択の件でございます。平成28年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書については、現在、市内小中学校に学校教育法附則第9条関係教科用図書を必要とする児童・生徒が在籍していないため、今回、採択は行わないこととしたいと思います。ご意見ございますか。

全委員

特になし。

委員長

特にご意見がございませんので、平成28年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書については、今回は採択を行わないこととします。

次に、平成28年度使用摂津市立義務教育諸学校教科用図書採択の件のうち、平成28年度使用小学校教科用図書についてでございます。教科用図書は原則として4年ごとに採択替えを行います。小学校教科用図書は昨年度に採択替えが行われましたが、採択という手続きは毎年必要となります。従いまして、平成27年4月7日付文部科学省初等中等教育局長通知に従い、平成28年度に小学校で使用する教科用図書については、今年度と同様のものを採択します。

続きまして、平成28年度使用中学校教科用図書についての審議に入ります。

まず、過去4回の学習会で出ました審議内容・意見については私の方からご報告させていただきます。報告の後、本日改めて皆様方にご審議いただき、採択について最終的に決定したいと存じます。

ではまず国語から始めさせていただきます。

国語に関しては、東京書籍・学校図書・三省堂・教育出版・光村図書の5者から見本本が届きました。選定委員会の答申や各委員の意見では、『全発行者とも教材の目標が明確に示され、生徒が主体的に学習を進めることへの工夫がなされている。また、学校図書は文法の学習において、巻末の「言語の学習」において練習問題が脚注にまとめて掲載され、生徒の自学自習にもつながるような工夫がなされている。三省堂については、「学びの道しるべ」において「内容を整理しよう」の後に「考えを深めよう」のように学習活動が2段階で具体的に示され、生徒がどんな活動をするのかがわかりやすい工夫がなされている』などの特長が挙がりました。

とりわけ、選定委員会から候補として取り上げられた東京書籍と教育出版と光村図書について、特に多くの意見が出されました。

東京書籍の特長としては、「学習の進め方・教科書の使い方」が折込を用いて、ていねいな説明がなされていました。また、伝統的な言語文化に関する作品において、折込のページを設け、写真資料を多く掲載し、本文がよりイメージしやすい工夫がなされていました。

教育出版においては、本文の文字のフォントが1年では大きく、2・3年では発達段階に応じてフォントや行間を工夫するなど、小中から高校へと意識した工夫がなされています。また、脚注の説明がわかりやすいなどレイアウトにも工夫がなされています。本の紹介について単元末に教材と関連した本をあらすじとともに大きく紹介するなど生徒の読書に親しむ工夫がなされていました。

光村図書においては、1年生の「言葉に出会うために」で小学校からのつながりを意識して、音読を大切にした導入を設定しています。また、本文下の脚注に新出漢字は示さず、本文末に新出漢字を示したすっきりとしたレイアウトで構成され、本文のフォントについても1年生は大きく、2・3年生は小さくするような生徒の発達段階への配慮が特になされています。

以上、国語の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお

願います。

教育長

現在、本市の子どもたちも含めて国語力の低下が懸念されています。その対応策の一つとして、読書の重要性が求められています。今回見本本を拝見しますと、どの発行者もそのためのいろんな工夫をしてくださっていると思いました。今委員長からありましたように、学習会では委員間でいろんな意見が出ましたが、私の感想としては光村図書の1年生の冒頭にある「言葉に出会うために」という題材があまり説明調ではなく非常に簡潔で子どもたちに国語学習の意欲を高めるためには適した題材だという印象を持ちました。しかし、総合的に見ますと文字の大きさや行間に余裕がある点、あるいは小学校で習った既習教材を用いて言語表現と映像表現の特性について学べる点、あるいは新聞記事とテレビニュースを比較した題材が用いられた創意工夫がなされている点などから、教育出版を推したいと考えております。

山手委員

どの教科書も中学生に読んでほしいと感じましたし、中学生が読むと成長につながるような教材としての工夫がされていて本当にどれも良いと思いました。その中で、今の時代にメディアリテラシーに関する教材が重要だと思いました。その中で東京書籍と教育出版がたくさん取り上げておられました。東京書籍は文章が中心になっていて、教育出版はポスターや映像を用いた視覚に訴える工夫がされていて良かったと思います。もう一点、1年生の最初の方のページで声を出そう、感想を伝えよう、など項目ごとに小学校で習ったことが書かれていて、そのうえに中学校でどんなことを習うかということがわかりやすく書いてあったところが良かったと思いますので、私も教育出版を推したいと思います。

齊藤委員

各者それぞれに教育目標は明確に示されていますが、教育出版のものは、目次の後に国語で身に付けたい言葉の力を具体的に示し、それに従って教科書の構成や教材で扱う内容が掲載されており、各領域での学びが生徒に分かりやすいものと考え、教育出版を推薦したいと思います。

委員長職務代理者

今回すべての教科、すべての出版社の教科書を拝見させていただ

きました。子どもたちの学びに対する工夫がされていて非常に良い教科書が出来ていると感心しておりました。国語については、各巻末、章末にいろんな読み物が紹介されていて、子どもたちの興味・関心を引き起こすためにそれぞれの章で勉強したことについて各者が示されていますが、教育出版については各単元の終わりごとに数冊読み物が示されており、習ったすぐ後にさらに興味・関心が広がっていく工夫がされています。今の時代の中において自学・自習に向けていろんなことに興味・関心を持つということは非常に重要なことだと思います。加えて、本文横にルビがふってありますので、視線を動かさずにそのまま意味を理解しながら学習が進めやすいと思います。以上のような工夫がされている教育出版が良いと思います。

委員長

どの教科書もすばらしく迷うような出来栄だと感じております。東京書籍でしたら文例が豊富でいろいろと比較しながら学習が進められる工夫がなされていました。そういう点では三省堂も子どもたちにわかりやすいように図を使ってどういう文章構成になっているかということを説明していた部分がとても良いと感じました。とりわけ、教育出版はレイアウトが整っているという感じがしますし、文例が1ページずつ大きく取ってあり、構成がわかりやすいようにいろいろと注意が書いてあります。それも必ず左のページに書いてあるということも子どもたちにとってわかりやすいと思いました。あとは、読み物のところですが、どこの出版社も読む教材のあとに必ず手引きを掲載しています。特に工夫されているのが、考えよう、深めよう、という表現も良いのですが、ここが大事と色付きで書いてあるので非常に子どもたちにわかりやすいと思います。大事といってもさらに考えることも促してあるので非常に良いと感じました。今使用している光村の教科書も素晴らしいのですが、教育出版の良い点が多く感じられましたので教育出版が良いと感じました。

皆様のご意見をまとめますと、どの方も教育出版が良いというご意見でしたので、教育出版を採択したいと思いますが皆様よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それでは国語は教育出版とします。

次に書写にうつります。

書写に関しては、東京書籍・学校図書・三省堂・教育出版・光村図書の5者から見本本が届きました。選定委員会の答申や各委員の意見では、『全発行者とも学んだことを日常生活に生かす題材の工夫や硬筆・毛筆の学習効果が高めるための工夫がなされている。また、学校図書は「試し書き」「ポイント練習」「まとめ書き」「硬筆」とスモールステップで課題と向き合えるような工夫がなされている。三省堂は目次の項目名を「学習のねらい」にすることで学習内容をより明確につかむことができる工夫がなされている。』などが挙げられました。

とりわけ、選定委員会から候補として挙げられた東京書籍と教育出版と光村図書について、特に多くの意見が出されました。

東京書籍は、各学年で設定された「書いて味わおう」について国語において学習する古典教材を扱い、字を書く楽しみを感じるような工夫がなされていました。教育出版は「文字で心を伝えよう」のページでは、クラス旗や学級目標を大きく示して、書写で学んだことを行事に生かせる工夫が特になされていました。光村図書は行書の導入において折込を用いて行書と楷書の対比があり、筆圧も含めた筆づかいが非常にわかりやすく示されていました。また、手紙や封筒、葉書の書き方についても丁寧でわかりやすい説明がなされていました。

以上、書写の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

委員長職務代理者

選定委員会の答申で3者の意見が多く出されたようですが、私が良いと思ったのはそこには入っていないのですが、学校図書が良いと思いました。というのは、書写の教科書ですので主たる目的は美しい文字をしっかりと書くということだと思います。その中で手本が大きくて見やすい、しかも数が多いという点において学校図書の教科書が良いと感じました。ただ、教科書というよりは書道・習字のお手本という方向に少し傾いているかなとも思いましたが、やはり学校図書が良いと思いました。それと、光村図書においては、手紙や葉書の書き方についても説明され、私たちの日常生活の中でいか

に大切にしていかなければならないかというあたりがしっかり書かれていましたので、申し訳ないのですが、私としては現時点でまだ結論が出ておらず迷っていますので、皆様のご意見をお聞かせ願いたいと思っています。

山手委員

学校図書はシンプルで書くことを中心に考えられているので、良いと感じましたが、他者を見ていると単に字を書くだけではなく、生活の中でいかに活用できるかという工夫がされていたので、中学生にとって楽しみの一つになると感じました。生徒達が興味を持ってできる内容があると力の入れ方が違ってくると思います。私も非常に迷ったのですが、光村図書が良いのではないかと考えます。

齊藤委員

日常生活に応用できる知識や技能としての手紙や葉書の書き方に着目しました。手紙の書き方について、教育出版では防災教育を意識した事例が取り上げられ、総合学習と関連付けられている点が良いと感じましたが、全体として丁寧でわかりやすく、レイアウトも良いと考えられる光村図書を推薦したいと思います。

教育長

私も皆さんと同じで、書写という教科は単に綺麗に字を書くということだけでなく、日常生活に活用できることがポイントになると思っています。どの出版社も手紙や葉書の書き方、ポスター・ノートの書き方、入学願書の書き方まで取り上げられているのですが、その中でも光村図書は図版も大きかったですし、説明書きがカラーでわかりやすく、内容も恥ずかしながら私自身もなるほどと感じる点があくつもありました。また、中学校では行書の指導が入ってき、全国学力・学習状況調査で過去に何度か行書に関する問題も出題されております。そういう意味で光村図書は行書と楷書を対比させてわかりやすく掲載しておりますので、私としても光村図書を推したいと思います。

委員長

東京書籍に「書いて味わおう」という表現があり、このことは書道をするうえで一番重要なポイントだと思いました。書いて楽しむ、楽しむために書くということは確かに重要ですが、やはり教科書という観点から考える必要があります。先ほど教育長のお話にもありましたが、行書の指導が入ってくると子どもたちは戸惑うと思

います。その中でも書き方が詳しい光村図書が子どもたちにとって良いのではないかと思います。

福元委員長職務代理者は先ほど学校図書もお手本としては非常に優れているということで、迷っておられるとおっしゃっていましたが、いかがでしょうか。

委員長職務代理者 私自身も日常生活にどう活用させるかということで、手紙や葉書の書き方も大切だと思っていて、そのことを丁寧に扱われていたのが光村図書でした。その点で迷っていたのですが、皆さんのご意見をお聞きしまして、光村図書が良いと感じました。

委員長 皆様のご意見がまとまりましたので、光村図書を採択したいと存じますがよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

委員長 それでは書写は光村図書とします。

では次に社会（地理的分野）にうつります。

地理に関しては、東京書籍・教育出版・帝国書院・日本文教出版の4者から見本本が届きました。選定委員会の答申や各委員の意見では、『全発行者とも学習指導要領の解説の改訂に関わる記載に関しては、防災教育は多くの箇所ですべて具体的な事例とともに取り扱われている。また、領土問題については全発行者とも十分な記述がなされている。東京書籍・帝国書院については、共に単元の導入部分において大きな、写真が掲載され、生徒が単元全体の学習内容をイメージしやすいような工夫がなされている。さらに、帝国書院は「地図帳の統計資料の使い方」の説明が丁寧になされており、地図帳と関連させて地理の学習を効果的に進める工夫がなされ、掲載されている地図についても見やすい。』などが挙がりました。

とりわけ、選定委員会から候補として挙げられた教育出版と日本文教出版について、特に多くの意見が出ました。

教育出版は、タイトル部に主題と副題、学習課題が掲載され、振り返りの活動内容も明確に示され、学習の流れをとらえやすい。また、「領土・領海・領空の説明」「雨温図の説明」等をはじめとし、新しくでてきた事項や資料の活用法について生徒が主体的に思考

するポイントが示されています。

日本文教出版は、振り返りの活動内容が明確に示され、1時間の学習の流れをとらえやすい。また、調べ学習において、計画を詳細に示し、より主体的な調べ学習を進められるような工夫がなされています。

以上、社会（地理的分野）の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

齊藤委員

教科書の使い方について、教育出版のものは2ページにわたる詳しい説明があり、それに続く「地理にアプローチ」では、地図帳やグラフの種類・活用の仕方をわかりやすく解説され、生徒の自学・自習を支援するための工夫がなされていることから教育出版を推薦したいと思います。

委員長職務代理者

私も齊藤委員のご意見と同じで、教科書の使い方が非常に工夫されていて子どもたちがこれを見れば自学・自習に役立ち一連の流れがよくわかるように思います。もう一点、領土・領海・領空についてはどの出版社も取り扱っておられましたが、教育出版の掲載する写真・図版がビジュアル的にも立体的でわかりやすく、理解しやすい印象を受けましたので、教育出版が良いのではないかと思います。

教育長

どの発行者も図や写真を多用されていて、生徒の興味・関心を高める工夫がなされていると思いました。また多くの発行者において單元ごとに学習課題でありますとか、学習の理解を確かにする活動、学習の内容をより深める活動といったものが示されて、生徒が課題意識を持って学習に取り組むことが出来る工夫がされていると思いました。さらに、領土問題等についても、どの発行者も内容・分量ともにほぼ同じくらいの記載がされていました。その中で、他の発行者と比較しても教育出版は図が非常にわかりやすく工夫されており、また、掲載されている地図の色調や近畿地方の歴史的特色内容も充実していると思いましたので、私としても教育出版を推したいと思います。

山手委員

どの出版社も内容的に非常に良くできていて、非常に難しいのですが、その中で決めるとすれば私は日本文教出版と教育出版のどちらかだと思いました。その2者を比べてみまして、日本文教出版は表紙を開けたところに世界の学生の写真が掲載されていました。また、最初の方では、それぞれの地域に住む人々の生の声を言葉で紹介していました。これらは実際に中学生が見ると身近に感じる事ができて、理解を深める工夫になっていると思いました。教育出版の方は表紙の裏に世界の農産物と、実際にそこで働いている人々の写真が掲載されていたのが良かったと思います。あと、環境問題について、本文の中に教育出版の方がたくさん書かれていました。総合的に考えてみますと、私も教育出版を推そうと思います。

委員長

私も先ほどご意見がありましたように、領土・領海・領空のところについて、立体的に説明されている教育出版のものは、一目見て子どもたちにとってわかりやすいので良いと思いました。どの出版社も素晴らしいのでそれだけで教育出版が良いかというのは一概に言えないと思いますが、本当にどれも素晴らしかったことは言っておきたいと思います。例えば、東京書籍はどの教科でもそのようなのですが、導入に力を入れておられるように思います。子どもたちが新しい単元に入る時にその単元のイメージがしやすいように写真が掲載されていたり、ビジュアル面で工夫されていることは非常に良かったと思います。雨温図についてもどの出版社も説明がされていますが、どう読んだらいいかが書かれているのが教育出版だけでした。授業で先生から読み方の特徴について説明がされると思うのですが、子どもたちが家庭学習をする時にもう一度改めて教科書を見たときに確認ができるのではないかと思いますので、私も教育出版が良いと思いました。

以上で皆様のご意見をまとめたいと思いますが、どの方も教育出版が良いというご意見でしたので、教育出版を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それでは社会（地理的分野）は教育出版とします。
では次に社会（歴史的分野）にうつります。

歴史的分野に関しては、東京書籍・教育出版・清水書院・帝国書院・日本文教出版・自由社・育鵬社・学び舎の8者から見本本が届きました。選定委員会の答申や各委員の意見では、『全発行者とも近現代史の記述については政府見解の示し方に各者の工夫がなされている。東京書籍については「この時代の特色をとらえよう」で記事にまとめたり作表したりする活動の後、「この時代の歴史の学習を確認しよう」で学習内容の確認、定着を図る構成になっている。清水書院についてはページの左右に資料を配置し、資料と本文をわけて掲載されている。帝国書院については、「タイムトラベル」においてその時代の市民の生活を大きなイラストで描き、その時代の特色をつかめるよう工夫がなされている。自由社については「まとめにチャレンジ」において「箇条書きでまとめる」「○字以内でまとめる」などまとめ方への具体記述がなされている。育鵬社については各章の導入で、「歴史絵巻」において時代の象徴的な人物や出来事のイラストが示され、工夫がなされている。学び舎については大判を生かし、資料をたくさん掲載し、学習課題が明確に示されている。』などが挙がりました。

とりわけ、選定委員会から候補として挙げられた教育出版と日本文教出版について、特に多くの意見が出ました。

教育出版は、章末のまとめにおいて、「学習のまとめと表現」では学習した内容を大きな年表や地図で確かめた後、生徒自らが主体的に時代の動きについて考える構成になっています。また、章末から次の章への導入がスムーズにつながるような工夫がなされています。

日本文教出版は、「時代・世紀のスケール」が添えられ、学習している時代を視覚的に把握しやすいよう工夫がなされているとともに、章の導入では大きな写真資料等を用いて時代の流れをとらえられるような工夫がなされています。

以上、社会（歴史的分野）の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

委員長職務代理者

どの教科書も良いと思っておりますが、学習のまとめから次の章への繋がりについて、その部分が非常に良くできていたのが教育出版だと思いました。やはり、歴史は流れがあると思いますので、そ

の流れをどう掴んでいくかということについて言えば、各章末でどうまとめられているか、次にどう繋げていくかについては非常に大切なことだと思いました。それともう一つ、これは非常に小さなことですが、ザビエルの写真についてです。これはどの教科書にも載っていますが、教育出版の教科書にはそれが茨木市の千提寺にあるキリシタン遺物史料館からだといった近くの地名が出てきます。子どもたちが地名を見て茨木から出たということが非常に身近に感じられて歴史に対する興味や関心が持ちやすいのではないかと思いました。以上から私は教育出版の教科書が良いのではないかと思いました。

教育長

歴史の教科書を拝見していると、書きぶりは各者特長があると思いました。内容的には地理と同様に多くの発行者で節ごとに学習課題が設けられ、活用問題等、子どもたちが課題意識を持って勉強できるよう各者共通した形で記載がされていると思いました。また、章末には日本と世界の関連をまとめて学習できる年表も多くの出版社で掲載されています。その中でも教育出版の年表は見開きで2ページにわたっており、図式やフォントも大きくて見やすくわかりやすいと思いました。さらに、教育出版は近現代史におけるテーマの一つであります東アジアの国や地域との関係をまとめたページを設けております。その中で領土問題や拉致問題等、現在残された課題なども整理して取り上げられていました。また、議論や解釈が分かれる部分についても、どの出版社もそうなのですが、とりわけ教育出版は両論がきちんと併記されているという印象を受けましたので、私としても教育出版を推したいと思います。

委員長

教育出版も良いのですが、私は少し迷ってしまっていて、東京書籍は先ほど申し上げましたように章の最初に時代の流れがわかるように、まとめて見開きで掲載されていたので、非常に魅力的に感じました。と言いますのは、歴史を学ぼうと各授業時間が限られていますので、自分は今どこを学習しているのかということが非常にわかりにくい場合があります。教科書によってスケールのように印が付いているものもありますが、東京書籍が良いと思いました。あとは、資料の写真ですが、どの出版社も載せてはいますが、対比しやすいような工夫がされています。例えば、金閣と銀閣を同じ大きさ

で載せているのは東京書籍だけでした。他でもそういった工夫はされていますが、資料の量についてもよく考えられていると思いました。先ほどから皆様のご意見にもありますように、教育出版のまとめ方は学習するうえで非常にわかりやすいということは選定委員会からの意見にもありましたので、非常に迷っているのが私の意見でございます。

齊藤委員

資料の見方が見やすく作られているというご意見がありました。私も教育出版のものは1行あたりの文字数が少なく、文章が比較的読みやすく、また資料も歴史では多くの写真やイラスト・グラフ・図解など、視覚的に捉えやすいよう配慮がなされています。そのような観点から教育出版を推薦したいと思います。

山手委員

どの教科書も子どもたちにわかりやすい工夫がされていました。その中で先ほどからご意見がありますように学習の流れと言いますか、章末の学習のまとめが大きな年表で書かれています。章の始まりの時も、教育出版のものは最初のページは下に年表が載っています。今どこの年代を学習しているかという流れがわかりやすいと思いました。子どもたちにとって流れをつかむという意味で私も教育出版が良いと思いました。加えて、それぞれコラム的な読み物についても、子どもたちにプラスアルファな興味を持たせるよう学習を進めようという工夫がされていますので、教育出版が良いと思います。

委員長

私も山手委員のご意見を受けまして、教育出版の導入については非常に工夫がされていることですので、東京書籍も確かに良いと思いましたが、子どもたちが自学・自習をするうえで歴史は特に教科書をまず開くことから重要だと思いますので、私も教育出版が良いと思います。

ここで意見をまとめたいと思います。皆様の意見から教育出版を採択したいと存じますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それでは社会（歴史的分野）は教育出版とします。

では次に社会（公民的分野）にうつります。

公民的分野に関しては、東京書籍・教育出版・清水書院・帝国書院・日本文教出版・自由社・育鵬社の7者から見本本が届きました。選定委員会の答申や各委員の意見では、『全発行者とも領土問題について記載のされ方は違うものの、全者、政府見解に基づいた記述がなされている。東京書籍については参政権の扱いにおいて中学生の写真を導入部で大きく掲載し、生徒が主体的に考える工夫がなされている。清水書院については深める公民で「為替とクレジットカード」について詳しい説明がなされるなど、生徒が自立した生活を送る上で必要な知識を身に付ける工夫がなされている。帝国書院については、「クローズアップ」と称して、各単元の導入資料が配置され、実際の生活の中の事象を話題にした構成になっている。自由社については新しい権利として「プライバシーの権利」「知る権利」「環境権」などについて丁寧な説明がなされている。育鵬社については裁判員制度についてシミュレーションを掲載するなど、生徒が主体的に考える工夫がなされている。』などが挙がりました。

とりわけ、選定委員会から候補として挙げられた教育出版と日本文教出版について、特に多くの意見が出ました。

教育出版は、裁判員制度についてシミュレーションを掲載するなど、主体的に取り組める工夫がなされていました。また、「読み解こう」が設定され、生徒が資料に対して考える視点が書かれ、より考えを深められるような工夫がなされていました。

日本文教出版については、どの見開きにおいても側注に学習のキーワードもあわせて配置しており、1時間の学習の中でいつもキーワードと関連付けて学びを深めることができるよう配慮がなされています。

以上、社会（公民的分野）の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

委員長職務代理者

公民的分野ということで、私が注目させていただいたのは裁判員制度と参政権についてです。裁判員制度については、どなたが裁判員になるかもしれないという今の時代の中で、子どもたちにもいずれ、中学校を卒業して裁判員に指名されることがいつ起こるかもわからない時代だと思います。それから、憲法の説明においても資料

がわかりやすく工夫されている教育出版が一番良いのではないかと思います。

齊藤委員

いずれの出版社も領土問題についての記述がありますが、教育出版のものは「日本の領土をめぐる」というテーマで、竹島や尖閣諸島などが地図や写真を用いて説明するとともに、現状に至る経緯を地理的分野や歴史的分野における学習も踏まえた記述がなされています。また我が国が正当に主張している立場と平和的手段による解決に向けて努力していることなどが他の出版社に比べ詳しく記述されていると考えますので、教育出版を推薦します。

山手委員

私は教育出版か日本文教出版で迷っています。子どもたちを取り巻く現代社会は裁判員制度やネット社会といったように新しい事柄に直面していると思います。そういった点に着目すると、摂津の子どもたちが将来経験するであろうことについて、どちらの出版社もわかりやすく取り上げられていました。環境問題のところで、教育出版の方がグラフやイラストを多用して視覚に訴えてわかりやすい工夫がされていました。全体的に見直すとやはり教育出版が良いと思っていますが、皆様のご意見をお聞きしたいと思っています。

教育長

社会科の中でも公民という教科は、領土問題・裁判員制度・消費生活・政治との関係・ネット社会における問題・環境問題等、様々なところで日常生活に直結している分野だと思います。見本本を拝見しますと、どの出版社も写真や図表を用いて生徒の学習に対する興味・関心を高める工夫がされていると思いました。例えば、教育出版と育鵬社は裁判員制度の説明にシミュレーションの手法を取り入れていました。各者特長がありましてどれが良いかを定めることはなかなか難しいのですが、教育出版には「言葉で伝えあおうというコラム」を見開きのページとして特設し、年間を通じて情報リテラシーやクリティカルシンキングから始まり、ディベート・シミュレーション・プレゼンテーション・ポスターセッション、そして最後にレポートの作成の学習ができるようになっています。これからの子どもたちに必要とされる様々な知識や表現技法、また議論の仕方を取り入れた活動がまとめて提示されている点は教育出版が

一つ抜けていると思います。また、これはほかにも取り上げられている者もありましたが、なぜ働くのか、あるいは働くことの社会的意味は、といった子どもたちにとって基本的・根本的な課題等も項を起こして取り上げられていました。以上のようなことも踏まえて総合的にみて教育出版を推したいと思います。

委員長

歴史的分野の教科書でしたら、それぞれ何のために歴史を学ぶかということについて各者ともいろいろと表現が違います。先ほど教育長がおっしゃられましたようにいろいろと両論があったのですが、公民に関してはどの発行者もその目的は平和な社会が成り立つためにということが書かれています。どの教科書もまとまっていたので私も迷いました。その中で、1時間の授業の流れがわかりやすいのは教育出版の特長だと思います。歴史においても、地理においても、見開きでわかりやすいので子どもたちが学ぶうえでもわかりやすいのではないかと思います。また家に帰ってからの家庭学習を考えても復習ができるという点で非常に良いと思いました。あと、消費生活についても、ネット社会についてもそれぞれ生活に身近な問題が書かれています。それは家庭科でもオーバーラップする形で書かれています。特に公民で強く取り上げなくても両方で少しずつ学ぶことによって将来子どもたちが自立した生活を送れるのではないかと思いますので、私は特に重要視はしませんでした。やはり学ぶうえでは教育出版が良いと思いました。先ほど、山手委員が迷っておられるとおっしゃっていましたが、いかがでしょうか。

山手委員

皆様のご意見の中で、教育出版のプラスの面がいくつか聞くことが出来ましたので私も教育出版で決定したいと思います。

委員長

それでは、皆様のご意見から教育出版を採択したく存じますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それでは社会（公民的分野）は教育出版とします。
では次に地図にうつります。

地図に関しては東京書籍・帝国書院の2者から見本本が届きまし

た。

選定委員会では帝国書院が候補として挙がりましたが、学習会では、あらためて2者について意見交換を行いました。

東京書籍は、資料を豊富に掲載し、生徒が調べ学習に活用しやすい工夫がなされていました。

帝国書院は、鳥瞰図や立体的な絵図を用いているページが多く、視覚的に捉えやすくなるよう工夫がなされています。

以上、地図の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

委員長

今回拝見しました地図は両者とも図版が同じ大きさとなっています。小学校で使用する地図は図版の大きさや色の濃淡等、それぞれ出版社の特長がありましたが、今回は両者で用いている資料等にも違いはなさそうに感じました。大きな違いとして良さを感じたのは帝国書院の方で、中国大陸からみた日本というのが載っていました。我々が見る世界地図は日本中心のものが一般的ですが、そういう試みがあっても良いと思いましたので、帝国書院が良いと感じました。あとは、細かいところですが、世界の食事というところでそれぞれ食事の写真が掲載されています。東京書籍は食事しか載っていないのですが、帝国書院は食べている人々も一緒に掲載されています。やはり食事というのは文化ですので、食べている人も一緒に載せてあるのは良いところだと感じました。それだけが決め手ということではありませんが、帝国書院の方が試みとしておもしろいと思いました。

教育長

世界地図では、大陸から日本を見渡す地図が掲載されていることは帝国書院の良い特長だと思います。あと、中国や北アメリカの鳥瞰図も大きくて見やすいと思いました。それと、日本地図の方で、近畿地方の地図に本市の名称が残念ながら載っていないところも見られましたが、帝国書院の方がより多くのページで載っていたので帝国書院を推したいと思えます。

齊藤委員

大陸から見た地図に加え、我が国と東アジア諸国との歴史的なつながりがわかりやすく示されている帝国書院を推薦したいと思

ます。

山手委員

それぞれ工夫されている特長が見られますが、私も帝国書院の方が良いと思います。

委員長職務代理者

摂津市という名称が一方の出版社には一部で載っていませんでした。やはり摂津市に住んでいる中学生にとって、地図を開いた時に自分のまちが地図に載っていないというのは大きな問題に感じると思いました。それと、ヨーロッパあたりに同緯度・同縮尺で点線にして薄く日本地図が記載されていました。この位置で日本に照らし合わせるとどういったことになるかといった不思議さ等も感じられておもしろいのではないかと思いますので、帝国書院が良いと思いました。

委員長

皆様の意見が帝国書院ということになりましたので、帝国書院を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それでは地図は帝国書院とします。

では次に数学にうつります。

数学に関しては、東京書籍・大日本図書・学校図書・教育出版・啓林館・数研出版・日本文教出版の7者の見本本が届きました。選定委員会の答申や各委員の意見では、『全発行者とも学習目標についてわかりやすく示されている。東京書籍では「数学の窓」「社会とつながる」では社会や職業における数学の活用を取り上げ、実生活との関連を図っている。大日本図書では側注に「思い出そう」があり、既習事項を振り返る工夫がなされている。啓林館では章の導入部分や1時間の授業導入部分に身近な内容が多く取り入れられ、学習にスムーズに入れるような工夫がなされている。数研出版では「Q」「確かめよう」「やってみよう」など学習活動を明確にし、言語活動の充実が図れるよう工夫がなされている。』などが挙げられておりました。

とりわけ、選定委員会から候補として挙げられた学校図書、教育出版及び日本文教出版について、特に多くの意見が出されました。

学校図書は学習の目標が容易にとらえることができるよう、より明確に示されています。

教育出版・日本文教出版は既習事項の振り返りも詳しくとりあげられ、ねらいに沿った1時間の授業の中での思考の流れにそった記述がなされています。また、両者とも多くの単元で身近な題材からの導入を取り入れています。

以上、数学の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

数学に関しては皆様非常に悩まれていましたが、いかがでしょうか。

教育長

委員長がおっしゃいましたように、非常に悩んだ教科・分野の一つです。どの発行者も日常生活と関連を図りながら数学科の目標が達成できるように学習内容や教材の配列などに工夫がされていると思いました。中でも日本文教出版は新しい学習を始める前のページに既習事項を確認する問題があつて、スパイラルな学習というものを他者より強く意識されていると思いました。また、これは細かい話ですが、垂線の作図の方法が2種類紹介している発行者と1種類だけしか紹介していない発行者とがありました。子どもたちが気づきにくい方法が載っていない発行者もありましたので、私としては2種類とも紹介している発行者の方が良いと思いました。また、巻末に小学校での既習事項の振り返りとなる問題、数学への興味・関心を高める問題、そして基本問題・活用問題というように工夫して配置されている点など総合的に判断して日本文教出版が良いのではないかと思います。

山手委員

私も数学は非常に悩みました。私は数学があまり得意ではないのですが、日本文教出版は新しい章に入る前に復習するところがあつて、順を追って進んでいくよう掲載されていますので、数学が苦手な子どもたちにもわかりやすいのではないかと思います。先ほど教育長から垂線の話がありましたが、学習会で私もなるほどと納得したこともありましたが、やはり子どもたちがわかりやすく感じるかどうかという点で日本文教出版が良いと思いました。

齊藤委員

いずれの発行者も、学習の導入において身近な課題を扱っていますが、日本文教出版のものは各章ごとにその課題を数学的に考えさせ、深め、またその学んだ内容が実生活に繋がるように構成されています。さらに構成やまとめがシンプルで各ページも全体的に見やすいことから日本文教出版を推薦したいと思います。

委員長職務代理者

選定委員会からの候補からあがっていました学校図書・教育出版・日本文教出版の3者については遜色ないと思っています。今それぞれ委員の皆様のご意見をお聞きしていますと、既習事項について、小学校で学んだということは学校図書と教育出版には書かれています。教育出版では具体的に小学校何年生で勉強したと書かれています。これは私が子どもでしたら見やすいと感じると思います。振り返りや身近なことや既習事項のことから考えると教育出版か日本文教出版のどちらかと思っています。その中で、身近なことや振り返りについて、まとめがすっきりしていてわかりやすいという点で日本文教出版が良いと思いました。

委員長

選定委員会の答申を受ける前に教科書を見て、東京書籍ほどの教科も導入の部分に見開きを使って身近な話題から紹介しているので、わかりやすいと思っておりました。あと、付録で数学を楽しむということも面白いと思いました。学校の勉強はしなければいけないものですが、子どもたちには学ぶ楽しみも身に付けてほしいと思います。啓林館や数研出版も非常に説明が丁寧ですっきりしているという印象がありました。選定委員会のご意見も踏まえまして、また本日の皆様のご意見もお聞きしまして、改めて見返しておりますと日本文教出版が良いのではないかと感じています。それと、中学校で証明問題が初めて出てきますが、慣れない子どもたちにとって理論的な思考がわからずつい飛ばしてしまうことも考えられます。それらについて、教育出版と日本文教出版が非常に丁寧に色つきで説明が書かれていますので、わかりやすいと感じました。あとは、中学校に入って急に数学が難しいと感じることのないように、小学校で学んだ既習事項の振り返りから繋げて学習できるような工夫がされていたので、最終的に日本文教出版が良いと思いました。

委員長職務代理者 先ほど、言い忘れていましたが、自分自身メモをしていた点について申し上げます。1年生の図形の導入のところで、日本文教出版が優れた点がありましたので、最終的に日本文教出版が良いのではないかと思いました。

委員長 では、皆様のご意見をまとめますと、数学は日本文教出版を採択したいと思いますよろしくお願いします。

全委員 異議なし。

委員長 それでは数学は日本文教出版とします。
では次に理科にうつります。
理科に関しては、東京書籍・大日本図書・学校図書・教育出版・啓林館の5者の見本本が届きました。選定委員会の答申や各委員の意見では、『全発行者とも観察・実験を含めた学習の流れがわかりやすいものになっている。大日本図書では観察・実験のページにおいて、よく目立つ注意マークが用いられ、安全面の工夫がなされている。学校図書では各単元末の「科学を仕事に活かす」において、学習内容に関わる職業についてとりあげ、理科の有用性を考えられるような工夫がなされている。教育出版は1年生の「力のはたらき」において、「抗力」について力の矢印とともに丁寧な記載がなされている。』などが挙げられておりました。
とりわけ、選定委員会から候補として挙げられた東京書籍、啓林館について、特に多くの意見が出されました。
東京書籍は「探究の流れの例とこの教科書の使い方」についてとても丁寧な説明がなされており、生徒がより効果的に学習を進める工夫がなされています。また、コラムが充実しており、身近な事象を科学的に考える場面が設けられています。
啓林館は、安全マークの横に、「要換気」「廃液処理」等と言葉で記載されているので視覚的にとらえやすい工夫がなされています。また、別冊が設けられ、青色シートを用いて用語や基本事項の復習が繰り返しできるようになっています。
以上、理科の学習会における報告です。
では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

教育長

理科教育は実験・観察が重視される中で、どの発行者も安全に対する配慮については工夫が見られると感じました。またそれ以外にも、理科室の使い方や理科学習の進め方について教科書の初めの方にまとめられるなど、図表や写真等を多用して子どもたちが興味・関心を持って取り組めるように工夫されていると思いました。その中で、1年生の力の分野と、2年生の化学変化と原子・分子、3年生の地球と宇宙を取り上げて教科書の記載を比べてみました。たとえば、力の矢印の説明は大日本図書が特に丁寧に書かれていると思いましたし、重力と質量の関係は学校図書、教育出版がわかりやすく説明されていると感じました。また、水圧の実験についての写真は東京書籍が特にわかりやすかったと思います。このようにどの者も特徴がありますが、啓林館の教科書は、まず、実験の際の安全に関する書き方に工夫があると思いました。また、これは個人的な考えかもしれませんが、化学の原子・分子の学習の中で結合の考え方について、啓林館と大日本図書は教科書に結合の手について紹介がされています。私は以前から、子どもたちが原子や分子を学習する際に結合の手を使って考える方法は非常にわかりやすい方法だと思っていますが、啓林館にはその記載があります。また、地球と宇宙のところで、月の満ち欠け・日食・月食の関係、金星の見え方等についてはテストによく出されるのですが、これらの天体の位置関係を立体的に理解することが苦手な子どもも居ます。啓林館ではそういうようなところにもわかりやすく写真も活用しながら書かれていますので、総合的に判断して理科は啓林館を推したいと思いません。

齊藤委員

啓林館の別冊マイノートは授業の導入やまとめとして活用できるとともに、その中に多様な練習問題も含まれていますので、学習内容を深めることができます。その観点から別冊のある啓林館を推薦したいと思いません。

委員長職務代理者

私も別冊マイノートが非常に良いと思いました。これは自学・自習に活用ができると思います。それから、3年生で習う地球と宇宙の関係ですが、最近ニュース等で随分宇宙に対して報道がされています。その中で子どもたちも身近で非常に関心が高いと思いますが、啓林館の教科書は非常にわかりやすく記載がされていました。

山手委員

結論から言いますと私も啓林館が良いと思います。別冊マイノートが付いているのは、子どもたちの理科学習の助けに非常に大きいポイントになると思います。器具の使い方や、実験時の注意等それぞれ工夫して安全対策が説明されていますが、啓林館はポイントが太字になっているのでわかりやすいと思います。他者もいろいろ工夫をされていましたが、東京書籍は地震が起きた時にどう対処するかといった点も加わっていましたので、そこは子どもたちに教えてほしいと思いました。1年生の植物のところで、啓林館はイラストが大きくて見やすいと思いました。

委員長

どの出版社も安全配慮については詳しく説明がされていましたし、レポートの書き方も非常に丁寧に書かれていました。どの教科書も素晴らしいのですが、1者を選ばないといけないのは非常に難しいと感じております。先ほどから啓林館の別冊が非常に良いというお話がありますように、現在も啓林館の教科書と別冊を使っています、私の息子も使っています。別冊もさらに良くなっているという調査委員からの報告もありますので、啓林館が良いと感じております。植物の説明のところで、各者同じように花の仕組みが記載されていますが、啓林館は特に大きく載っているので、わかりやすいと思います。以上から、私も啓林館が良いのではないかと感じております。

では、皆様のご意見を受けまして、啓林館を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それでは理科は啓林館とします。

では次に音楽（一般）にうつります。

音楽に関しては、教育出版・教育芸術社の2者の見本本が届きました。

選定委員会では教育出版が候補としてあがりましたが、学習会では、あらためて2者について意見交換を行いました。

『教育出版は、歌唱（共通教材）についての写真が大きく鮮明で、より歌へのイメージをふくらますことができる工夫がなされている。また、音楽の創作について、具体的な活動をイメージしやすく、

活動への興味・関心が高まる工夫がなされている。教育芸術社は、巻頭の「音楽学習 MAP」においてどの教材で何を学ぶのかわかりやすく提示されており、めあてを理解したうえで、学習を進めることができるよう工夫がなされている。』などが挙げられました。

以上、音楽の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

教育長

音楽は2者を比べまして、教育芸術社は大阪で生まれた文楽が教育出版と比較してもわかりやすく取り上げられていると思いました。しかし、その他いくつか両者共通の教材を比較してみると、全体的には教育出版の方が写真も大きく掲載されており、イメージがつかみやすいと思います。また、創作分野において教育出版のアプローチの仕方の方が旋律を作りやすいという意見もありました。さらに、国歌の取扱いも教育出版の方が丁寧であると思いましたので、私としては教育出版を推したいと思います。

委員長

両者とも素晴らしいのですが、教育芸術社の方がやや詳しいという印象を受けました。例えば、鑑賞の領域ですが、アイダを扱っているのですが、たくさんページを取ってあって、ストーリーもわかりやすいようにしてあります。中学生はなかなかオペラや歌舞伎を見に行く機会がないと思うので、そういう意味では教養を付けるためには良いことだと思いました。一方で、教育出版の方は子どもたちがイメージしやすい写真が数多く載ってあるというのは非常にポイントが大きいと思いました。「花」という歌は隅田川がちゃんと写真が取り入れられています。昔の隅田川の写真も掲載されており情緒があって、こういうことを歌いたいということが子どもたちに伝わりやすいと思います。日本の歌を大事にしていかなければならないのですが、歌う心や歌を楽しむということが写真によってイメージが膨らむ手助けになると感じましたので、教育出版を推したいと思いました。

齊藤委員

音楽と暮らしの関わりについて、例えば著作権とインターネット配信等の記述について詳しく記載されている教育出版の教科書を推薦したいと思います。

委員長職務代理者	<p>どちらも良い教科書だと思いますが、教育芸術社の方はやや専門的だと感じました。教育出版の教科書は、子どもたちが教科書を開いた時に曲と写真のイメージが一致するよう、どういう歌をどういう景色の中で歌うと気持ちが良いかといったところがすぐにイメージできると思いました。それから、学習指導要領に基づいて中学校では君が代を教えるということにはなっておりませんが、教育出版の方が丁寧に大きく扱われていました。以上から私も教育出版が良いと思います。</p>
山手委員	<p>先ほどからお話がありますように、歌と情景がイメージしやすいように写真で丁寧に説明されていることは大きなポイントになると思いました。教育芸術社がやや専門的というご意見がありました。が、中学生にボイストレーニングを教えるページを見ておりましたが、とても専門的すぎてこれは中学生には難しいだろうと感じました。使いやすさや会得しやすさから考えると教育出版の方が良いと思いました。それから創作音楽のところでも、中学生にとって取り掛かりやすい方が良いと感じましたので、教育出版を推したいと思います。</p>
委員長	<p>皆様のご意見をまとめまして、教育出版を採択したいと思いたすがよろしいでしょうか。</p>
全委員	<p>異議なし。</p>
委員長	<p>それでは音楽（一般）は教育出版とします。 では次に音楽（器楽合奏）にうつります。 音楽（器楽合奏）に関しては、教育出版・教育芸術社の2者の見本本が届きました。 選定委員会では教育出版が候補としてありましたが、学習会では、あらためて2者について意見交換を行いました。 『教育出版は、リコーダーの運指図をその楽曲の頁の左端に配置し、ギターは図解だけでなく写真も用いて弾く際の手の動かす方向を矢印で示している。教育芸術社は、「楽器を知ろう」の中でそれぞれの歴史や楽器や楽曲の発達の背景を知ることができる内容が取り扱われている』などが挙げられました。</p>

以上、音楽の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

委員長職務代理者

私は伝統や文化という点で言えば、日本の古典的な楽器の写真を見ていると、例えば、尺八の種類が多さに私自身も感心しました。子どもたちにとっても同様に感じるのではないかと思いますので、そういう載せ方をしていた教育芸術社が良いと思いました。あとは、ギター等、楽器の奏法については教育出版の方がしっかり書かれていましたので、私自身は正直どちらか迷っております。

齊藤委員

楽器の奏法についての写真が多く、説明も具体的でわかりやすく配置され、また曲数も多いことから教育出版を推薦したいと思います。

教育長

どちらも差があまりないので、決めるのが難しいのですが、皆さんがおっしゃるようにギターの弾き方や楽器の奏法が写真等で具体的に示されてわかりやすい工夫がされている教育出版を推したいと思います。

委員長

私も同じ意見で楽器の弾き方について、全く興味のない子どもたちにもわかりやすく説明されている方が良いと思いましたので、そういったことがわかりやすい教育出版を推したいと思います。

山手委員

今まで身近に感じなかった楽器に親しんで、少しでもやってみようと思わせることが中学生にとっては良いことだと思うので、そういったことに工夫を凝らしている教育出版を推したいと思います。

委員長

福元委員長職務代理者は迷っているとのことでしたが、皆様のご意見をお聞きしますと、教育出版というご意見が多いので、教育出版を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それでは音楽（器楽合奏）は教育出版とします。

では次に美術にうつります。

美術に関しては、開隆堂・光村図書・日本文教出版の3者の見本本が届きました。

選定委員会では光村図書・日本文教出版が候補としてあがりましたが、学習会ではあらためて3者について意見交換を行いました。

『開隆堂は、生徒の作品例が大きく掲載され、作品の写真と作品の説明や主題についての説明がバランスよく掲載されている。光村図書は、表現領域に関するページが多く、巻末において「学習を支える資料」として平面・立体・メディアの技法と用具の使い方を取り上げ、生徒が必要に応じて選択できる内容になっている。日本文教出版は、鑑賞領域に関するページが多く、「教科書美術館」については紙質を変えるなどの工夫がなされている。また、学びのねらいが学習評価の4観点のマークとともにわかりやすく示されている。』などが挙げられました。

以上、美術の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

委員長職務代理者

光村図書の教科書は、作品の製作過程が非常に詳しく書かれているので、教科書を見ながら子どもたち自身で製作作業ができると思います。そういったところから、光村図書が非常に優れていると感じました。一方、日本文教出版の方は紙質が所々で変わっています。日本画のところにくると和紙っぽい紙質に変わります。視覚・触覚といった子どもたちの五感に訴える工夫がされていて、これは大きな特長だと思いました。それから、鑑賞すべき作品の数が多かったと思います。冒頭に申し上げたように、教科書を見て作品をどう作り仕上げていくかという製作過程が詳しく書かれている教科書の方が良いか、五感に訴え、鑑賞作品が多い教科書の方が良いか非常に迷いました。やはり、子どもたちにとって美術館に行く機会はあまりないと思いますので、教科書で多くの作品が見られて、また、五感に訴えられているというのは大きなポイントだと思いましたので、日本文教出版が良いと最終的に考えました。

教育長

美術に関しては、私も実はまだ決めかねているところがありますが、光村図書は風神雷神を題材に日本の美を取り上げています。ま

た、絵の具の彩色の流れを、リンゴに順番に色を塗り替えていき最終的に仕上げるという技法を連続的な写真で説明しています。私自身もなるほどと思いましたが、こういう技法を中学生の頃に教えてあげることも必要だと感じました。リンゴは赤というイメージでただ赤く塗るのではなく、色を重ねていくということでこんな風になるんだということを目に見える形で説明することは非常に有効だと感じました。また、開隆堂は日本の伝統的な絵画表現であります。絵巻物を題材に現代のアニメーションや漫画との関係を示すなど、特長があると思いました。日本文教出版は漫画との関係も取り上げられていますし、それらに加えて目標が観点別に表記されわかりやすくなっています。また、伝統的な水墨画や木版画のページになると紙の質を変えて表現している点なども工夫されています。私は光村図書か日本文教出版かというところで現時点では決めかねており、皆様のご意見をお聞かせいただきながら決めたいと思っております。

齊藤委員

委員長からご紹介のとおり、日本文教出版のものは、題材ごとに学びの狙いが明確に示されているので、生徒が学習の目標を掴みやすいものと考えます。また、教科書の判が大きいことで情報量も多く、作品鑑賞がしやすいことから日本文教出版を推薦します。

山手委員

私も決めかねているのですが、それぞれに良い点がございます。美術というのは絵を描くということだけでなく、自分の生活の中でどのように活かされるか、得意不得意に関係なくいろいろと幅を広げていけるような教科であってほしいという想いがあります。日本文教出版の方が学びの広がりや美の探求等、身近な生活における美術・芸術との関わりについてよくわかると感じましたので、日本文教出版が良いと思います。

委員長職務代理者

光村図書は色の塗り方であったり、粘土のこね方から作品の製作過程について非常に詳しく説明されています。そういった部分と、鑑賞部分との比較においてどちらを取るかで最終的に日本文教出版が良いと思いました。ただ、光村図書が良いとされる製作過程のわかりやすさというのは、美術の先生が授業の中で見本を見せるなり、そういったことをすればその部分をカバーできるのではないかと

と思いました。名作を見るといった鑑賞部分については、先生ではカバーするには限界があると思いますので、最終的にそういった点から日本文教出版が良いと思いました。

委員長

他の教科ですと、授業の流れがある程度決まっていますが、国語と一緒に美術は何を教材に持ってきても良いという点が難しいところだと思います。学習指導要領で教えること等は個別に目標等が定められていますが、何を題材に扱うかはそれぞれ先生に任されています。その中で、開隆堂は生徒の作品を魅力的に大きく載せていて、子どもたちがこれを見て、自分もこんな作品を作りたいとインスパイアされるのではないかと思います。それぞれ特色がありまして、光村図書は絵の描き方の説明がわかりやすい点が魅力だと思います。他に日本文教出版の良いと思った点はジャパニズムを取り扱っているところで、漫画はどの出版社も取り上げているのですが、昨今クールジャパンということが言われます。例えば、海外に行った時に現地の人から日本の漫画が好きだと話しかけられることが多いようです。実際にコスプレしている人たちも見かけるようですので、クールジャパンは私たちの日本人の自慢でもあるわけです。これは突然出てきたわけではなく、日本画の流れから出てきたものだと思いますし、鳥獣戯画も漫画の原型というのは皆さんご存知だと思いますが、葛飾北斎の時代からほとんど漫画だということを子どもたちが知ることもおもしろいのではないかと思います。あと、見開きで葛飾北斎の波の絵と富士山が載っているのも迫力があって良いと思いました。その中で、日本の文化の紹介がされていますがそれぞれ特色があって、日本文教出版の紹介の仕方が日本画だけではなく、風景も扱っているのは良いと思いました。私としては日本文教出版を推したいと考えました。

教育長は迷っておられるということでしたがいかがでしょうか。

教育長

私がなぜ光村図書のリンゴの絵の話をしたかと言いますと、子どもの頃私自身絵を描くことが非常に苦手で何度描いても上手くいかなくて悩んだことがあります。お恥ずかしい話ですが、今回こういう描き方があると初めて知りまして、こういうことをもっと小さいうちに教えてもらえたら良かったと感じたからです。また、光村図書は東山魁夷さんの絵を製作過程で4枚ほどスケッチを重ねて

比較して載せるなどの工夫もありますが、福元職務代理がおっしゃったように、それを教員が授業の中できちんと教えていただくということならば、私の想いは日本文教出版でも伝わるのではないかと思います。そういうことを期待して日本文教出版を推したいと思えます。

委員長

また別に、授業者のあり方について研究授業等も進めていただきたいと思います。では、皆様のご意見から日本文教出版を採択したいと思います。よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それでは美術は日本文教出版とします。

では次に保健体育にうつります。

保健体育に関しましては、東京書籍・大日本図書・大修館書店・学研の4者の見本本が届きました。

選定委員会の答申や各委員の意見では、『大日本図書では見開きの左上に学習課題とは別に身近な疑問からはじまる学習活動を明確に示し、学習の最後では活用課題の横にキーワードを示すことで1時間の学習のポイントを振り返ることができる。大修館書店では見開きの左上には「Question」において身近な疑問がなげかけられており、学習の最後には「Try」においては学んだことを生かして考える課題が設定されている』などが挙げられておりました。

とりわけ、選定委員会から候補として挙げられた東京書籍と学研について、特に多くの意見が出されました。

東京書籍は、学習のめあてが明確に示されるとともに「やってみよう」「考えてみよう」の課題に取り組み、「生かそう」では実生活に活用できるような学習内容がまとめられています。また、全体を通して、資料を多く掲載し、特に「体力テストの実施方法」などについても詳しい説明がなされています。また、学年別に保健分野と体育分野が交互に配列され、学年ごとの学習の流れがわかりやすい配列になっています。

学研は、「学習の目標」「キーワード」を学習のはじめに示し、本文と写真などの豊富な視覚的資料を関連させながら学習が進められるよう配慮がなされています。また、喫煙・飲酒・薬物などにつ

いても詳しく、生徒にわかりやすいものであると考えます。

以上、保健体育の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

委員長

保健体育は私から意見を述べさせていただきますと、子どもたちは周囲を取り巻く環境から身近な危機に立たされていると思います。具体的には、喫煙・飲酒・ドラッグ等、深刻な問題として非常に危ぶまれております。この記述はどの発行者も非常に丁寧に書かれています。私の息子に聞きますと特に喫煙に関して厳しく書かれている方が子どもにとって良いということでしたが、どの発行者も丁寧に書かれておりました。あと、身近なことで言いますと女の子はダイエットに関心があります。中学生になると体型も変わってきて、心配になって無理なダイエットをしてしまい体を壊す子どもが居ないか気がかりです。東京書籍と学研がダイエットについて記述がありました。体力テストのポイントについて詳しい説明がされているものも良いと感じました。子どもたちが自学・自習するうえで、いろいろ書かれているの方が良いと思いましたので、私は東京書籍が良いと感じました。

教育長

保健体育というのは子どもたちの日常生活において、非常に身近な教科であろうと思います。どの発行者も興味・関心を高めて日常生活に活かされるように工夫されていると思います。なかでも東京書籍・学研は学習の目標やキーワードが明確に示されておりまして、学習の流れも経験や既習事項の活用等がまとめられております。とりわけ東京書籍は若年層の生活習慣病について取り上げられておりました。他者に比べて、より具体的な数値を挙げて防止に取り組めるよう工夫されている点や、また、これも昨今話題になっております薬物の社会への影響についてどの発行者よりも、より詳しく取り上げられているのではないかと思いますので、私としては東京書籍を推したいと思います。

委員長職務代理者

保健体育の授業時数は非常に少ないと思います。その中で他の教科と同じような厚さのページ数の教科書を消化するのは非常に難しいと思います。そうなってくると軽重を付けて指導をすることが

必要だと思うので、先ほどからお話があるように昨今話題になっている若年層の生活習慣にスポットをあてて、喫煙やエイズの問題を重点的にやらなければならないと思います。そこは丁寧に扱われている教科書が良いと私は思いました。あとの部分については、詳しく述べられていて自分で自学・自習をする時に使える教科書という観点から申し上げまして、東京書籍が良いのではないかと思います。

齊藤委員

私も東京書籍が良いと思いました。他者に比べて写真やイラストが多く、例えばAEDの取扱いを見ますと、写真もあり非常に理解しやすいと思いますので東京書籍を推薦したいと思います。

山手委員

東京書籍にも学研にも良いところがあって、私もまだ迷っています。東京書籍はやってみよう、考えてみよう、活かそうという流れがとてもわかりやすく書いています。サイトの危険等や飲酒・薬物についてはそれぞれ記載があるのですが、学研の方は傷害の防止や健康生活のことについて良いポイントがありました。大日本図書はマイトレーニングを作ろうというものがあるって、身近ですぐにでも取り組めそうな内容のものがあったりしますので良いと思いました。日常の中で活かせるものという点から考えますと、齊藤委員からご意見がありましたように、AEDの取扱い等身近なことから考えると総合的に東京書籍が良いと思いますが、正直決めかねていますので、皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

委員長

学研も良いところが多く確かに迷うところではあると思いますが、山手委員が特に迷われる点はどのようなところですか。

山手委員

それぞれが良いので、どこがというのはありませんが、どれかに決めるとすれば東京書籍かなと思います。

委員長

私が着目したのは、犯罪被害の防止ということです。このところ、不審者がよく目撃され、教育委員会事務局からも不審者情報が発信されます。どのように気を付けたらいいかということを経済書籍は丁寧に記載がされていました。他者も記載はされていますが、どこで差をつけるかということだと思います。齊藤委員がおっしゃった

ように、AEDに関して今は子どもが使うことで命が助かるような時代ですから、ぜひ中学生にもAEDの使い方をしっかり覚えてもらいたいと思います。授業でも説明されると思いますが、いざとなった時に恐れずに取り扱うことができるようになってもらいたいと思います。いじめの問題を取り扱っているところも良い点だと思いました。

教育長

全会一致とならない場合、もしご意見が合わない場合は採決して決めていただくことも当然あり得ると思いますがいかがでしょうか。

山手委員

東京書籍が良いと思う点はたくさんありまして、妊娠・出産についての記載やいじめについても触れられていますし、体力テストも見やすいですので、最終的に東京書籍にしたいと思います。

委員長職務代理者

自然災害が起こった時の対応については学研が詳しく書かれていました。同じように東京書籍も詳しく書かれていますし、さらに地域とどうつながって自然災害に対処していくかというところまで踏み込んで書かれています。その辺りから考えても丁寧に扱われていると思います。

山手委員

先ほどご意見がありましたように限られた授業時間内で教科書の内容をすべて網羅して勉強はできないと思います。たくさんの方を丁寧に扱われている方が、自学・自習には良いと思いますし、情報量が多い方が何かと役立つと思いますので、そういったことから東京書籍に決めたいと思います。

委員長

いろいろと載っていて逆にわかりにくい教科も確かにあると思いますが、この教科は子どもたちが見てわかりにくいことはないと思います。

多くの意見が出ましたが、以上から保健体育は東京書籍を採択したいと存じますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それでは保健体育は東京書籍とします。

では次に技術・家庭（技術分野）にうつります。

技術分野に関しましては、東京書籍・教育図書・開隆堂の3者の見本本が届きました。

選定委員会では東京書籍が候補としてあがりましたが、学習会ではあらためて3者について意見交換を行いました。

東京書籍は、ガイダンスにおいて、実習前、実習中、実習後の注意事項が示され、安全上気を付けるべき事項が記されています。また、情報教育について、情報化社会のプラス面とマイナス面を比較しながら、活用力・判断力を育むような工夫がなされています。

教育図書は、加工方法や作業工程に生徒が作業している写真を用い、製作工程がイメージできるよう配慮がなされています。

開隆堂は、学習のまとめ「生活に生かそう」では様々な課題設定を設け、より生徒の実態に沿ったものを選択できるよう工夫がなされています。

以上、技術の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

なお、まもなく会議終了予定時刻となりますが、このまま審議を継続してよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それではこのまま審議を継続します。ご意見をどうぞ。

山手委員

技術・家庭（技術分野）も子どもたちの日常生活において活かされやすい教科だと思いますので、情報量が多い東京書籍が良いと思います。それと、安全への配慮として実習を楽しく安全に進められるよう多くのページを使って説明がされています。情報教育のところでも非常に詳しく書かれていますので、東京書籍が良いと思いました。

委員長職務代理者

理科でもそうだったのですが、実習を伴う教科というのは事故や怪我の防止が最優先されるべき事項だと思います。そういうことから考えますと、東京書籍が一番安全への配慮について詳しく書かれ

ていると思いました。それから、実習例も他者より多いと思います。技術・家庭も授業時数が少ないですから、自学・自習の観点から見れば資料も豊富で情報量が多い教科書を使った方が良いと思いますので、東京書籍が良いと思います。

齊藤委員

私も同じ意見ですが、教科書のサイズが3者の中で一番大きく、その分本文や写真・図表・資料等に余裕があって見やすい東京書籍を推薦したいと思います。

教育長

教育図書の教科書は実際に作ってみようということから始まります。実際に作りながら製作するのに必要な技術をその都度、製作過程を連続写真で様子が見えるような配列がなされています。一方、東京書籍と開隆堂は、基礎的な学習、材料の説明や作図など基本的な技術について習ってから、その後に製作作業が始まっていきます。特にものづくりで子どもたちが興味・関心を持ったまま、まず作ってみようというのはおもしろいアプローチの仕方だと思いましたので、私は教育図書を推したいと思ったのですが、残念ながら昨今ますますその重要性が増している情報セキュリティに関する学習についての記載が他者に比べ教育図書は少し足りないのではないかと感じました。製作という部分でのアプローチの仕方は非常におもしろいと思ったのですが、やはり情報モラル等の内容の量などを総合的に判断すると東京書籍が良いと思いました。また、大判を活かして全体を通して写真や図を多用し、わかりやすく工夫されていて、さらに安全面等についてもマークや枠囲みを用いて注意喚起ができるような配慮がなされている点などからも東京書籍を推したいと思います。

委員長

今の意見がありましたが、作業の安全に関しては東京書籍が一番丁寧に書かれていると思いました。ネットの危険性について、教育図書は他者に比べて少し分量が少ないと残念に感じました。先ほど良いと思ったのは作業過程の連続写真について、一番詳しいのは教育図書で子どもたちにとってわかりやすいと思いました。のこぎりを使ううえで、切り方等の説明もわかりやすいと感じました。最後に私が注目したのは、自転車の点検についてです。これについては、載っている教科書と載っていない教科書がありました。摂津

市の中学生はほとんどが自転車に乗っております。クラブ活動で試合に行く時や職場体験に出る時、あるいは高校生になってからは通学で使うこともあると思います。自転車の整備が詳しく載っているのは東京書籍でした。それだけでは決められないのですが、花や野菜を植える時期についても見開きのページでわかりやすく説明され、資料も豊富でした。授業時数が少ない中で、将来の実生活に活かすことができるよう、子どもたち自身が教科書を見てたくさんのことを習得してもらいたいと思いますので、東京書籍を推したいと思います。

委員長 皆様のご意見を受けまして、東京書籍を採択したいと思いますがよろしいでしょうか。

全委員 異議なし。

委員長 それでは技術・家庭（技術分野）は東京書籍とします。
では次に技術・家庭（家庭分野）にうつります。
家庭分野に関しましては、東京書籍・教育図書・開隆堂の3者の見本本が届きました。

選定委員会では東京書籍が候補としてあがりましたが、学習会ではあらためて3者について意見交換を行いました。

東京書籍は、「食生活」「衣生活と住生活」「成長と家族・地域」「消費生活と環境」の順で構成され、「食生活」を最初に置くことで、家庭科という教科への関心を高めることができます。実習において、衛生面に関する記述についても丁寧になされています。

教育図書は、日本の伝統文化でもある和服についてくわしく取り上げられ、特にゆかたについては着方やたたみ方まで示されています。また、調理実習例においては調理時間の目安が示され、普段の生活に生かす意欲を向上させる工夫がなされています。

開隆堂は、日本の伝統文化である行事食について写真などを用いて詳しく説明し生活の中に取り入れる工夫がなされています。また、防災教育について1週間分の飲食料を写真で表示するなど災害時に必要なものをイメージしやすい工夫がなされています。

以上、家庭分野の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお

願います。

教育長

どの教科書も素晴らしいのですが、昨今少しずつ忘れられてきている郷土料理や伝統的な食文化について丁寧に取り上げられている点は開隆堂が良いと思いましたが、やはり大判を活かして全分野を通して写真を多用して生徒の興味・関心を高めるであるとか、あるいは食領域からスタートして子どもたちの興味・関心をまず引き付ける工夫がなされている点などから東京書籍が総合的に見ると良いのではないかと思います。

委員長職務代理者

実習例の写真が非常に大きくて、子どもたちが見やすいサイズになっていると思います。それから日常生活における契約関係のところでクーリングオフの仕方やカード決済については、今後インターネットで買い物をするとか、身近になっていく問題だと思います。子どもたちが現代社会を生きていくうえで今後直面する問題についてもしっかり記載がされていた東京書籍が良いと思いました。

齊藤委員

私も東京書籍が良いと思います。技術分野と同じく安全への配慮について、例えばクッキングで用いる包丁などの実習前と実習後の注意事項が詳しく示されています。また、安全や衛生に配慮する項目に安全や衛生マークが示されるなど、安全についてきめ細かい配慮がある東京書籍を推薦したいと思います。

山手委員

私も東京書籍が良いと思います。それは先ほどからご意見が出ておりますように、実習例の写真が大きく詳しいということです。それと、食中毒の説明のページで手の洗い方を写真でとても丁寧に書かれていました。手を洗うということは毎日行うことなので、どうしてもいい加減になりがちなのですが、家庭分野では手の洗い方はしっかり身に付けてほしいと思います。それから、「私たちの家庭・環境」という項目で最初の方に赤ん坊から大きくなるまでのイラストが描かれていて、それがとてもわかりやすく勉強する前の予備的な理解に結び付きやすいと思いました。東京書籍の教科書全体を見ますと、すべてにおいて基礎を主体的に学習させようというアプローチというか工夫が随所に見られましたので、東京書籍を推したいと思います。

委員長

各者とも本当に丁寧に記述がされていまして、あまり抜け落ちていることが見られません。それもわかりやすくイラストを使っでの説明がされています。私が良いと思ったのは、先ほどダイエットの話をしました、中学生は体をつくる時期ですので、1日にどれくらい食べたらいいかということをしちんと把握してほしいと思います。中学校給食も始まりましたので、お弁当等自分たちが摂るべき必要なものが東京書籍は非常にわかりやすく説明がされていました。また、1日に必要な食料品で作った献立についても写真で載っていましたので、わかりやすかったと思います。

皆さんのご意見が東京書籍で揃いましたので、東京書籍を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それでは技術・家庭（家庭分野）は東京書籍とします。
では次に英語にうつります。

英語に関しましては、東京書籍・開隆堂・学校図書・三省堂・教育出版・光村図書の6者の見本本が届きました。

選定委員会の答申や各委員の意見では、『全発行者とも生徒の発達段階や興味・関心に即して工夫された題材が取り上げられている。開隆堂については、小学校の「外国語活動」の復習に23ページ割かれており、生徒が楽しみながら中学校の英語に慣れていきやすいように構成されている。学校図書については、各Unitの末に「Listen&Repeat」が設けられ、聞く力のさらなる充実を図ることができる。さらに、三省堂は巻末に該当学年のCAN-DOリストが掲載され、各項目は「発表」「要点理解」等と整理されている。さらに、光村図書は「重要構文復習リスト」、「現在・過去・過去完了」の意味が整理されたページが掲載され、復習の際に役立ち、より知識の定着を図ることができる。』などが挙がりました。

とりわけ、選定委員会から候補として挙げられた東京書籍と教育出版について、特に多くの意見が出ました。

東京書籍は1～3年を通して、会話を多く扱い、コミュニケーション力を高めるような工夫がなされていました。

教育出版は授業を原則として英語で実施する将来を見越し、本文を学習することで実践的なコミュニケーション能力を高められる

話題・題材が多く取り上げられ、コミュニケーション能力の基礎を培う工夫がなされていました。また、生徒が目標に到達したかを自己評価し、各学年でつきたい力を確認できる CAN-DO リストの目標が英語を使える力を育む内容になっていました。

以上、英語の学習会における報告です。

では、報告を受けまして1者を選びたいと考えます。ご意見をお願いします。

委員長職務代理者

私は開隆堂か教育出版のどちらかで考えさせていただきました。開隆堂は1年生の導入部分が非常に多くて小学校との関連においても良いことだと思いました。今後は小学校英語がどんどん入ってくる時代になるとニュース等でも報道されています。この辺りは注目すべき観点だと思っております。CAN-DOリストは開隆堂・三省堂・教育出版とあるのですが、一番充実していて使い勝手が良いのは現時点では小学校との関連を重視するよりもより大きなポイントになると思いましたが、結果的に教育出版が良いと思いました。

教育長

どの発行者も小学校の外国語活動との接続は意識されて作られていると感じました。また、繰り返し学習やペアやグループでの学習形態も取り入れるなど様々な工夫がされていると感じました。必要性がよく言われるCAN-DOリストについては、とりわけ教育出版のCAN-DOリストは各学年の到達目標も一緒に記載がされています。2年の本にも1年時の到達目標が書かれるなど、1年生から3年生までの継続性や、復習をする時にも良いと思いました。また、教育出版はパートごとに学習のポイントがわかりやすく示されている点や学習した語句や文法事項を分冊に取りまとめられている点など、生徒が自主的かつ主体的に勉強する際にも目標を持って学習しやすく作られていると思いましたが、教育出版を推したいと思います。

齊藤委員

教育出版のものには各学年に別冊のエッセンシャルが用意され、その内容については教育長からお話がありましたように、学習を定着させるための情報が多く、本冊で学んだことを定着させ、さらに活用させていく上で効果的だと思います。またプラスアルファの活

動にも、いろいろな配慮がなされているように思いますので教育出版を推薦いたします。

山手委員

私も結論から申しますと教育出版です。どの英語の教科書も小学校で習った単語を最初の導入部分に数多く取り入れられております。それぞれ子どもたちが英語に馴染みやすいような工夫がされてあります。一つ教育出版で良いと思ったことは、文法の説明のところで、英語の仕組みということ従来文法から学ぶということではなく、今は耳から入ってくる英語学習が効果的だとよく言われています。そういった新しい学習の仕方に合わせたような文法の説明の仕方がされていまして。私は文法の教え方という点に着目して教育出版が良いと思いました。

委員長

数学や理科だと習うことが決まっているのに対し、どんな教材を使うかということは非常に幅が広い教科だと思います。その中で山手委員から文法の説明で教育出版が良いとおっしゃいましたが、現在完了や過去完了といった我々日本人には馴染みが薄い時制について、それがどういったものなのかについて図で示していた光村図書は良かったと思います。そういったことも授業で先生が教えてもらえたら良いと思いました。光村図書の文法の説明は非常にわかりやすいと思いました。しかし、今は何より摂津市では教育出版の教科書を使っています。ここで大きく舵を切って教科書を変えてしまうのは実際の教育現場としてどうだろうと思いますので、今教育出版が良いのであればそのまま使った方が良いでしょう。文法の説明も重要ですが、文脈から捉えていく学習も大事だという流れであればそれも一つのポイントだと思います。あと、教育出版は単語数が一番多いというのが大きなポイントだと思います。今使っている使いやすさからも教育出版を推したいと思います。

皆様のご意見を受けまして、教育出版を採択したいと思いますがよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

委員長

それでは英語は教育出版とします。
他にご意見等がありますか。

委員長職務代理者

すべての教科書を見せていただきましたが、教科書の色使いの問題については、たびたび本市の教育委員会会議で話題になっておりました。色覚に課題があるお子さんが見にくい教科書が一部で見られるのではないかということについて、どこまで教科書会社の方が配慮されているかというご意見が出ておりました。その辺りについて、本日は教科書会社の方々が傍聴に来られていると思いますので、ぜひとも色覚の点についてしっかりと精査をいただいてより良い教科書作りをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長

これは感想ですが、どの教科書も本当に素晴らしく甲乙つけがたいので、選ぶのがもったいないと思いました。本当に教科書会社の方々にお礼を申し上げたいと思います。その中で、いずれもカラーページをたっぷり取っているので、思った以上に子どもたちにとって受け入れられやすいと感じました。それと、中学生は教科書以外にノートや問題集・資料集、あとお弁当も持ってきておられますので、学校に持っていく荷物が多いため、できるだけ軽量化を図っていただきたいと思います。やはりそうしないと、教科書等を学校に置いて帰ったりしますので、できたら自学・自習ができるようにと願っております。

委員長

それでは、採択候補が出揃いましたので、私より確認させていただきます。

平成28年度使用中学校教科用図書、
国語、教育出版株式会社
書写、光村図書出版株式会社
社会（地理的分野）、教育出版株式会社
社会（歴史的分野）、教育出版株式会社
社会（公民的分野）、教育出版株式会社
地図、株式会社帝国書院
数学、日本文教出版株式会社
理科、株式会社新興出版社啓林館
音楽（一般）、教育出版株式会社
音楽（器楽合奏）、教育出版株式会社
美術、日本文教出版株式会社
保健体育、東京書籍株式会社

技術・家庭（技術分野）、東京書籍株式会社

技術・家庭（家庭分野）、東京書籍株式会社

英語、教育出版株式会社

以上となりましたが、何かご質問等がございますか。

特にございませんので、平成28年度使用中学校教科用図書についての審議を終了します。

それでは、教育支援課長よりお願いします。

教育支援課長

今後の情報公開について確認をいたします。

教科用図書採択事務に関することについては一定期間、具体的には文部科学省の示す採択期間である8月31日まで非公開ということで進めてまいりましたが、本日の採択に係る審議を公開といたしましたので、採択結果のみ直ちに公開し、議事録等については整えたうえで、9月1日以降に公開したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

委員長

皆様ご異議はございますか。

全委員

異議なし。

委員長

異議なしということですので、そのようにお願いいたします。

以上で議案審議を終了いたします。

これをもちまして、本日の案件はすべて終了いたしましたので、臨時教育委員会を終了いたします。皆様ご苦労様でした。